

兵庫県保険医協会神戸支部 阪神・淡路大震災20年メモリアルプレ企画

市民公開講演会

南海トラフ地震で何が起きるのか

—地震・津波のメカニズムから防災を考える—

日時：12月13日(土)16時～18時

会場：兵庫県保険医協会5階会議室

神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5階
TEL:078-393-1801

講師：神戸大学名誉教授 田結庄 良昭 先生

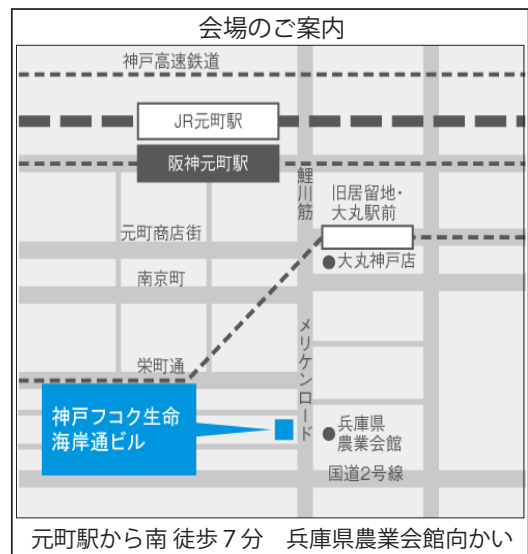


参加無料

2015年1月17日、阪神・淡路大震災から20年を迎えます。兵庫県保険医協会ではこの節目に、改めて阪神・淡路大震災、また東日本大震災の経験を振り返り、今後起こりえる災害にどう対応していくべきか考えるメモリアル行事を開催します。

そのプレ企画として、県が発表した南海トラフ地震の被害想定を通して、どういう事態が想定されるか、またどういうメカニズムで被害がもたらされるのかを学ぶ講演会を行います。災害の正しい理解を通じて、安心して暮らすことができる街をつくるために何が必要か、一緒に考えましょう。

講師には、地質学の専門家で地震や津波の問題で幅広く発言をされている神戸大学名誉教授の田結庄良昭先生をお招きします。ぜひご参加ください。



お問い合わせはTEL.078-393-1817
神戸支部担当 ノウトミ・カドヤまで

参加お申し込み書 FAX. 078-393-1802 *切り取らずに送信ください

兵庫県保険医協会神戸支部市民公開講演会に () 人参加します

お申し込み者氏名

医療機関・団体名

電話/FAX

兵庫県保険医協会

276号 2014年11月25日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

第35回神戸支部総会記念講演

感想文

「最近の医療過誤訴訟の動向 —間違いだらけの医療過誤の考え方—」



訴訟にならないためにも患者さんと良好な関係を築くようにと語る川西讓弁護士

前号の神戸支部ニュースでは、神戸支部が10月18日に協会会議室で第35回総会を開催し、また記念講演として「最近の医療過誤訴訟の動向—間違いだらけの医療過誤の考え方—」をテーマに、阪神合同法律事務所の川西讓弁護士が講演したことを紹介した。今号では記念講演に参加された先生方の感想文を紹介する。

医師・患者の 関係作りが大切

まずは今回、医療者側の諸事情を広く深く理解していただいている法律の専門家が身近に存在していることを知り、また、実際の事例を生々の声で直接わかりやすく紹介していただく機会をいただき、心強さと安心感を得られたことに深く感謝いたします。

私は一介の開業医として、普段よりガイドライン、教科書に準じた標準的な治

療を心がけていますが、患者背景を考慮しながら同じ病気でも一律ではなくさまざまな治療方法を選択しています。

ところが、近年は医療、医学の分野においても多くの情報が容易に得られるため、予習をしてから来院する患者が多く、患者側からの要望やアドバイス(!?)を受けられることもしばしばです。そのとき、強いプロ意識とプライドから、拒否感と嫌悪をあらわにしてしまうと、診察室内が険悪な雰囲気になり、場合によっては修羅場と化してしまう可能性があります。----- (2面に続く)

(1面から続く)-----
す。

治療開始前から良好な医師・患者関係が築かれていない状況では、たいてい良い結果が得られません。患者もつらい症状から早く何とか解放されたいという気持ちから、時間と労力をかけて調べてきたわけですから、あまりこちらの言い分を主張しすぎず、耳を傾け、その努力を認めることから始めることで以降の治療もうまく行くように思います。

講演においても、患者に不都合な状況に至ったらすぐ訴訟というわけではなく、その過程において何らかの感情のも

つれ、行き違いがあり、そこから問題が複雑化してしまうことが多いと強調されておりました。

医学の発達は目覚ましいものがありますが、まだまだ治療困難な病気も多く、治療するにあたって合併症、副作用などのリスクが伴います。

悩み苦しんでいる患者に、共に分かちあう気持ちで真摯な態度で相対し、協調して病気の治療へと向かうという姿勢を示さなければいけないと、なんとなく分かってはいるものの、実践しきれてはいない自分の未熟さに気づくことのできた、すばらしい講演でした。

【中央区 加茂 統良】

医療トラブルを防ぐ 具体例を知りたかった

最近の医療過誤訴訟の動向についての講演を拝聴いたしました。講演の内容は私にとっても、当院の職員にとってもかなり難しい内容でした。医療に携わる者にとっては、医療事故がないように毎日慎重に診療を行っています。毎日の朝礼でもそれを確認しています。しかし人間が行う行為で非常に気をつけていても何万回に一回の割合で医療過誤が生じることが言われています。医療過誤が生じた場合に訴訟などのトラブルにならないようにするには、どのようなことに気をつけたらよいのか、また患者にどのように説明をしたらトラブルになりにくいのかの具体的な内容を、例を挙げて話をしていただけましたら分かりやすかったのにと考えています。医療についてはプ

ロでも、訴訟などについては本当に素人ですので、もっとわかりやすい説明が欲しかったです。

【兵庫区 松田 洋三】

「ストップ患者負担増署名」 各医療機関のご協力を！

目標 5万筆

新たな患者負担増をやめ、
窓口負担の大幅軽減を求める請願

請願理由

さらに増える患者さんの自己負担
政府は、医療費の窓口負担を1→3割の定率負担に加えて、入院時の食料代の自己負担を増やす(1食260円から460円)など、新たな患者負担を増やそうとしています。

保険のきかない医療が増えようとしています
政府は「保険のきく医療(保険診療)」と「保険外の自由診療」を併用する「混合診療」をほかに、保険のきかない医療を増やそうとしています。

国民の医療を受ける権利を保障することは、憲法25条にもとづく国の責任です。
公的保険で誰もが必要な医療が受けられるよう、以下の事項の実現を求めます。

請願事項

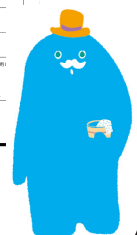
❶ 患者負担をこれ以上増やさず、窓口負担を大幅に軽減してください。
❷ 保険のきかない医療を広げる計画をやめ、必要な医療は公的保険で保障してください。

お名前	ご住所

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本郵政株式会社
(印鑑) 医療機関、医師

兵庫医療大学 兵庫医療大学 兵庫医療大学 兵庫医療大学 兵庫医療大学

お問い合わせ・追加注文は
TEL078-393-1807(政策部)まで



第86回評議員会を開催

患者負担増やめさせよう



患者負担軽減などを求める決議を採択



発言する藤末衛評議員(左)と
住友直幹評議員(右)

協会は11月16日、協会会議室で第86回評議員会・臨時決算総会・第37回共済制度委員会を開催した。評議員ら98人が参加し、前半期会務報告と後半期の重点課題を承認。また、患者負担増計画をやめることやこども医療費の無料化、医療へのゼロ税率の導入などを盛り込んだ決議を採択した。

討論では、兵庫県内各地の評議員から、支部活動の紹介や消費税増税問題などについて活発な発言がなされた。

神戸支部からは藤末衛評議員と住友直幹評議員が、それぞれ「日本人のアイデンティティーが問われる沖縄知事選」、「反原発は胸突き八丁?」というテーマで、集団的自衛権行使容認後の新基地建設が意味するものや、最終処分場のメドすら立たないのに再稼働へ向けてひた走る原発問題について発言した。

また、評議員会特別講演では、元内閣法制局長官の阪田雅裕氏が「集団的自衛権が許されないわけ」をテーマに講演し、会員・市民ら150人が参加した。憲法改正という正規の手続きを踏まずに集団

的自衛権を認めてしまうことは大きな問題であると訴えた。

ラジオ関西番組 **出演者大募集中!!**

「寺谷一紀と!い・しょく・じゅう」内コーナー

「医療知ろう!」

毎週火曜 20時25分頃から

AM558kHz
(但馬放送局 1395kHz)



パーソナリティー
左 寺谷一紀さん
右 トモチン

出演のご希望は
TEL: 078-393-1807 (政策部) まで